

地域と大学

第49号

Newsletter No.49, Education Center for Regional Development

「野」と「学問」のあいだで考え続けたい

地域創造教育センター 講師 辻本 侑生

2024年4月に地域創造教育センターを主担当として着任しました、辻本侑生です。私は大学を卒業した後、国や自治体に向けた調査研究・コンサルティングを行う民間企業に6年半勤務し、そのかわり、プライベートで民俗学の研究を続けたり、通信制の大学院で学び直したりしてきました。30歳になる手前で思い切って転職し、青森県の弘前大学で2年3か月、地域と大学をつなぐ業務に携わった後、本学で働き始めています。

こうした私のこれまでの経歴は、大学教員としてはやや異色なものに思われるかもしれませんが、実は私が専門とする「民俗学」という分野と密接にかかわっています。民俗学は、大学に研究基盤を有する多くの学問と異なり、在野の研究者によって支えられてきた学問です。日本民俗学会という国内最大の学会も、大学等の研究機関に属さない研究者が多数を占めています。私自身、先ほど「プライベートで民俗学の研究を続け」と書いたように、民間企業に在籍していた際は、自身を在野の研究者として位置づけていました。

また民俗学の研究活動は、大学等の研究室で完結することは非常に少なく、プライベートを含めた自らの生活経験を見つめ直したり、地域社会に出て人びとと言葉を交わしたりするなかで深められていきます。特にフィールドワークを行う場合には、民俗学者は地域に暮らす人びとから教わるばかりとなります。

大学等に必ずしも所属しない人びとが、自らの生活経験の内省や地域での出会いを通じて、学びを続けていく。こうした独特のスタイルから、民俗学はしばしば「野の学問」と呼ばれます。「野」は既定の型に当てはまらないというニュアンスを持った言葉ですが、他方でこれに「学問」という硬質な言葉を組み合わせ

ると、とたんに緊張関係が生まれます。民俗学という営みを、他の学問と同じように大学という知の「制度」に当てはめてしまってもいいのか、という議論は、これまでの民俗学史の中でも幾度となく繰り返されてきました。

こうして考えると、企業で働きながら在野で研究を続け、いまは大学で教育研究に携わるようになった私の経歴は、民俗学における「野」と「学問」の間での揺れ動きと無関係ではないように思えてきます。そして、現在の大学においては、企業や自治体等の実務と研究をつなぐこと、あるいは地域と大学をつなぐことが一層求められていますが、(大学地域連携に関わる教職員の誰もが日々感じているであろう) これらをつなぐことの難しさも、実は民俗学における「野」と「学問」の緊張関係と似た構図にあるようにも思えるのです。

「野」と「学問」の狭間で悩み続けている私にとって、生涯学習・社会教育の実践に30年近い蓄積を持つこの地域創造教育センターにご縁をいただいたのは、とても幸運なことでした。リカレント教育の重要性が叫ばれる中、実務と研究、地域と大学を往還しながら、私たちはどのように学び続けることができるのか。民俗学の難しさであり持ち味でもある「野の学問」という言葉を端緒として、このセンターで考え続けていきたいと思っています。



15年来お世話になっている福井県の焼畑山村にて(梅澤慎氏撮影)

2024年度静岡大学公開講座

静岡大学では、地域社会に対し広く学習の機会を提供することを目的として、1978（昭和53）年より公開講座を実施しています。

今年度の公開講座は、下の表のとおり、5月から翌年3月にかけて多彩な12講座を実施しています。担当教職員それぞれの専門分野を生かした、特色ある講座となっています。

静岡と浜松にキャンパスをもつ静岡大学の特徴を生かし、県内各地で開講します。

最新情報は地域人材育成・プロジェクト部門HPでご確認ください。

<https://www.lc.shizuoka.ac.jp/>



講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	受講料	主催
私のミカン ～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門員・成瀬博規 技術部技術専門職員・周藤美希	5/14、7/9、9/10、11/19、 2025年3/4 (いずれも火曜日) 13:30～15:30	農学部附属地域 フィールド科学教 育研究センター	一般市民	10	11,000	技
子どもの「やってみたい!」を 支えるために： 遊びの中のリスクマネジメント	教育学部附属幼稚園園長 他 教育学部教授・村越 真	6/5(水) 13:30～15:30	教育学部附属 幼稚園園庭 (雨天時：遊戯 室)	小学校就学前 の子どもの保 護者（満2～ 4歳のお子様 の同伴可）	20	無料	教
虫! 虫! クワガタ! カブトムシ! [全4回]	農学部准教授・田上陽介 理学部助教・後藤寛貴 NPO法人食用昆虫科学研究会・ 佐伯真二郎	7/20 9:00～11:30、 7/27 10:00～12:30・ 13:30～16:00、 8/3 13:30～16:30 (いずれも土曜日)	静岡キャンパス	小・中学生	12	無料	農
作って学ぶ、工学部の化学実験	工学部教授・植田一正 技術部技術専門員・草薙弘樹 技術部技術専門職員・早川敏弘	7/28(日) 13:00～16:00	浜松キャンパス	中学生・高校 生（保護者同 伴可）	20	無料	工
紅茶作りに挑戦しよう	農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	7/30(火) 13:30～16:00	農学部附属地域 フィールド科学教 育研究センター	小学生とその 保護者、 一般市民	20	1,000	技
ゲノム解析の最前線へようこそ! [全3回]	静岡共同利用機器センター特任助教・兼崎友 技術部技術職員・伊藤由希子 技術部技術職員・村野宏樹 静岡共同利用機器センター教授・道羅英夫 技術部技術専門職員・森内良太	8/6(火)・7(水) 10:00～17:00、 9/28(土) 10:00～11:00	8/6、7は対面(静 岡キャンパス) 9/28はオンライン (Zoomミーテ ィング)	静岡県内高校 生	12	無料	共
多彩な視点から学ぶ 伊豆半島の自然と社会 [全5回]	人文社会科学部准教授・横田宏樹 農学部助教・江草智弘 理学部教授・日下部 誠 理学部教授・塚越 哲 人文社会科学部教授・大原志麻	9/10(火)、10/8(火)、 11/19(火)、12/11(水)、 2025年2/18(火) 18:00～19:30	対面（東部サテ ライト）とオンラ イン（Zoomミーテ ィング）の併用	一般市民	対面 20 オンライン 90	500	未
静岡大学キャンパスミュージアム 公開講座2024 [全4回]	静岡大学客員教授（ふじのくに地球環境 史ミュージアム教授）・岸本太郎 人文社会科学部教授・戸部 健 技術部・宮澤俊義 理学部教授・石橋秀巳	10/5・12・19・26 (いずれも土曜日) 10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学 生、小中高 生（中学生以 下は保護者同 伴）	20	1,200 (小中 高生は 無料)	キ

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	受講料	主催
A1時代の情報とメディア	情報学部教授・白井靖人 情報学部准教授・大木哲史 情報学部准教授・大本義正 情報学部講師・丸山友美	11/9(土) 10:30～12:00	浜松キャンパス	一般市民	70	無料	情
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル(初級編)	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング元日本代表選手・小泉成行	12/8(土) 9:00～16:00	静岡市葵区服織周辺「山崎」バス停付近	①・②の条件を満たした方 ①登山経験者で平地3km、山道4km程度を無理なく歩ける方 ②YouTubeで閲覧する事前学習(予習30分程度)が可能な方	20	4,100	教
第5回 邦人作品の調べ	教育学部講師・服部慶子 他	2025年3/8(土) 14:00～16:00	静岡市葵生涯学習センター(アイセル21)	一般市民	100	無料	教
安心登山のための読図とナビゲーション(中級編)	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング元日本代表選手・小泉成行	2025年3/8(土) 9:30～16:30	静岡市葵区牧ヶ谷北公園	下記①～③の条件をすべて満たした方 ①過去に本学開催の公開講座の初級編を受講した方(安心登山のための地図と地図アプリ活用術(初級編)を含む)、又は地形図の基礎知識がある方 ②登山経験者で平地3km、山道5km程度を無理なく歩ける方 ③YouTubeによる事前学習(予習60分程度)が可能な方	20	4,100	教

[主催欄凡例]

教=教育学部 情=情報学部 工=工学部 農=農学部 共=静岡共同利用機器センター キ=キャンパスミュージアム
 未=未来社会デザイン機構 技=技術部

地域創造学環部門の上半期（4月～9月）事業報告

静岡大学地域創造学環のカリキュラムの柱となる「フィールドワーク」の授業では、地域と連携しながら地域課題の解決に取り組んでいます。

2024年度前学期は、静岡県内13箇所14のテーマで、地域の方々と交流しながら、地域の課題や資源を発掘し、課題解決のための提案や実践を行いました。

また、地域創造学環のホームページでは、各フィールドの活動紹介や2023年度の活動をまとめたフィールドワーク報告書を掲載しています。ぜひご覧ください。

【静岡大学 地域創造学環ホームページ】

<https://www.srd.shizuoka.ac.jp>

【2024年度前学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	清水港周辺地域が“つながる”“ひろがる”“にぎわう”活動
静岡市 庵原地区	庵原地区の地域資源を活かした食・スポーツによる地域活性化
静岡市 おまち	おまちを中心とした静岡市内のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館	私のまちの文芸世界
浜松市 佐久間町	交流の輪づくり ～新たな関係構築～
掛川市 田園空間博物館 南遠州とうもの里	子どもたちを呼び込むための環境づくり
御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクト ～スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進～
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	東伊豆町の新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト
伊豆半島全域（ジオパーク）	地域づくりとジオパーク
多世代の居場所づくり	多世代の居場所づくりと防災教育の実践

地域創造学環2023年度フィールドワーク報告会

2024年5月30日（木）、グランシップ 交流ホールにて、「2023年度静岡大学地域創造学環フィールドワーク報告会」を行いました。学生たちは昨年度に活動した静岡県内14箇所、15テーマの各フィールドにおける課題点の説明や解決に向けての進捗状況について発表しました。学生の発表は、それぞれのフィールド独自のイベントを開催した報告や、フィールドワーク協力先の方々と意見交換会を行った報告など、学生たち

が一生懸命取り組んできた成果がうかがえました。

また、当日はフィールドワーク協力先の方々をはじめ多くの方々に会場とオンラインでご視聴いただき、「どのフィールドの学生も地域とのつながり、関わりをととても大事にしている印象を持ちました」「学生の熱量や豊富なアイデアに驚きました。」など、たくさんの温かいコメントをいただきました。



佐久間フィールド

佐久間町フィールドでは、5月に浜松湖北高等学校佐久間分校にお伺いし、地域とのネットワークをより加速させるため、大学生が学校の行事や授業で貢献できないかご相談をさせていただきました。同校は地域に根差し、加えて学外有識者を招いた学習にも注力をされており、大学生にワークショップの担当の可能性についてご提案をいただきました。そして、6月初旬に文化祭（佐高祭）開催中の学校に再度伺い、副校長先生、教頭先生、「地域」について学ぶ授業を担当する先生との打ち合わせを行いました。開催時期・内容について、概ね方針が決まり、今後ワークショップの内容を具体化していくことになりました。また佐高祭にも参加させていただき、在校生、先生、さらには卒業生などに、佐久間への思いや「地域」について学ぶ授業の感想・抱負などについてインタビューをし、ワークショップに向けて貴重な参考資料になりました。

また、文化祭では、ご当地お菓子「ごまちゃん」を考案したパンブキンレディースの川添さんをはじめ、みなさんが「ごまちゃん」や「げんこつ」などの手作りのお菓子や飲み物の販売をされるとのことで、設営・販売のお手伝いも行いました。



【佐高祭の様子】



【パンブキンレディースさんの手伝いをしている学生】



そして現在は、5月に佐久間町川合の八坂神社に伝承されている神楽「花の舞」の保存・継承に関わるお話をお聞きする機会があり、10月に予定されている「花の舞」に参画することも検討しています。



【八坂神社に伝承されている神楽「花の舞」についてお話を聞く】



多世代の居場所づくりフィールド

多世代の居場所づくりフィールドは、静岡市清水区小島を拠点として活動をしています。今年度も、子供たちの居場所づくりに取り組んでいる龍津寺の子ども寺子屋に参加し、小島地区の子供たちと交流を行っています。今年度からはグローバル共創科学部のコラボティブワークスの履修生と共に活動を行うことになり、5月に新メンバーの5名が初めて子ども寺子屋に参加し、地域創造学環の先輩たちと一緒に積極的に子供たちの輪に入りました。中には、子供たちと直ぐに仲良くなり、似顔絵を描いてもらった学生もいたり、寺子屋の後には、お茶とお菓子をいただき、勝野秀敏住職や子供たちとさらなる交流を行いました。その土曜子ども寺子屋には小島小学校の教頭先生も参加されており、先生から小島小学校の最近の様子や小島地区周辺の小中学校で学校の統廃合が進みつつある現状についてご説明がありました。小島小学校は今年で創立150周年を迎えるとのことで、静岡大学の学生も式典に参加することができればとのお言葉もいただきました。寺子屋終了後の地域散策では、子供たちに陣屋を案内してもらったり、小島生涯学習センターに挨拶に伺ったり、ゆめひろばの芝を見学するなど、有意義な時間を過ごしました。



【子ども寺子屋に参加している様子とその後の地域散策】

7月の活動では、学生は2班に別れ、小島小学校での奉仕活動と土曜子ども寺子屋に参加しました。小島小学校の保護者40名とともに朝8時から10時までの2時間小学校の校舎の清掃活動を行った学生グループは、朝から猛暑だったため、汗をかきながらの清掃活動となりましたが、みんな真剣に清掃活動に取り組みました。また清掃後、活動に参加した保護者にインタビューをし、小島地区が抱える問題や現状などについて意見聴取を行いました。奉仕活動終了後は、寺子屋参加グループに合流し、子供たちと一緒にトランプをしたり、ピアノを弾いたりするなどして交流を図りました。



【校舎の清掃活動と子ども寺子屋】

地域人材育成・プロジェクト部門の上半期事業報告

地域連携応援プロジェクト

2011年度より「地域連携応援プロジェクト」として、本学学生・教職員が主体となり、すでに地域団体や自治体等と協働で取り組んでいる、または、新たに取り

組もうとする地域の活性化につながる活動を学内で公募し、支援しています。2024年度は10件の応募があり、全てを採択しました。

採択したプロジェクト一覧

部局	代表者	プロジェクト名
情報学部	杉山 岳弘	浜松市楽器博物館における楽器の3Dモデル化とVR空間における演奏体験支援事業
情報学部	後藤 謙太郎	「高校生情報・探究コンテスト」開催をとおした探究学習応援事業
理学部	徳岡 徹	植物をツールとした鉢窪山麓活性化プロジェクト
工学部	立岡 浩一	浜松市と大学との連携事業～大学生による講座～(小学生児童を対象とした理科工作教室)
工学部	戸田 三津夫	佐鳴湖プラットフォーム形成支援
工学部	松尾 廣伸	磐田市古川自然再生・私設地域交流防災拠点整備プロジェクト
農学部	松本 和浩	天城甘茶を河津町の新たな地域ブランドに！ー聞き書きによる利活用文化の調査・保存と新規在来系統選抜による種苗生産準備ー
グローバル共創科学部	池田 恵子	命・健康・尊厳を守る避難所運営の実践的研修モジュール開発(1年目)
情報基盤センター	永田 正樹	静岡県袋井市ICTを楽しみながら学ぶ「ふくろいICT 寺子屋」
技術部	山本 千尋	南アルプスの駒鳥池のクマムシの調査と井川ビジターセンターでの展示

地域課題解決支援プロジェクト

地域からの課題提案を受け、学生・教職員と地域住民が協働して解決支援を試みる「地域課題解決支援プロジェクト」も12年目となりました。最近各地で地元高校との連携による取り組みが増えており、地域課題解決支援プロジェクトにおいて高大連携は重要なプロセスとなっています。

本年度上半期の取り組み事例を紹介します。

松崎町

松崎町フィールドワークでは松崎高校と連携しながら地域課題に取り組んでいますが、7月15日には松崎高校有志とともに空き店舗を活用したコミュニティカフェでイベントを行いました。また、2030松崎プロジェクトにおいても、稲取高校と連携しながら活動を展開しており、探究学習・西豆学において多くの学部生が継続的に協力しています。

東伊豆町

東伊豆フィールドワークが3月に実施した「東伊豆魅力発見大学校」では、県内外の様々な高校にも協力いただきました。7月20日には、稲取高校、御殿場南高校の先生方と交流会を開き、若い世代が地域課題に取り組む意義について意見交換を行いました。両高はそれぞれ6月、7月に静岡キャンパスを訪問し、大学生と交流しました。



【稲取高校の本学訪問】

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座 「気候」を捉えなおす

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	7/6 (土)	気候を学ぶ ドイツの事例を踏まえて	山本 隆太 (静岡大学地域創造教育センター・准教授)	94
2	8/3 (土)	気候変動とそれへの適応	川原 博満 (静岡大学客員教授 / 環境省関東地方環境事務所 地域適応推進専門官)	92
3	8/24 (土)	野生生物から見た気候変動	伊藤 舜 (静岡大学理学部・助教)	93
4	9/7 (土)	中世ヨーロッパにおける気候と社会変動	藤井 真生 (静岡大学人文社会科学部・教授)	89
5	9/28 (土)	気候文学の可能性	小二田 誠二 (静岡大学人文社会科学部・教授)	-

■会場：あざれあ (静岡県男女共同参画センター) 2階大会議室

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座 半導体のこれまでとこれから

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	10/29 (火)	半導体入門 (一般的な半導体の概要と特殊な特性の発現について)	立岡 浩一 (静岡大学工学部・教授)	-
2	12/3 (火)	観測から「気づき」を導くデータサイエンスの可能性	山本 泰生 (静岡大学情報学部・准教授)	-
3	12/17 (火)	光を電気に変える半導体の仕組み	伊藤 哲 (静岡大学工学部・准教授)	-
4	1/21 (火)	電子・光・熱デバイスの動作を理解するための半導体基礎物性	池田 浩也 (静岡大学工学部・教授)	-
5	2/4 (火)	半導体開発から応用	根尾 陽一郎 (静岡大学工学部・教授)	-

■会場：静岡大学浜松キャンパス附属図書館浜松分館・学生支援棟 (S-Port) 3階大会議室

第2回についてはオンデマンド配信を実施

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

主催事業

静岡大学東部市民講座

静岡の自然と社会 -県東部にスポットをあてて考える-

・日時：2024年6月22日 (土) 13:00~16:15

・場所：プラサヴェルデ 4階 407 会議室

・講習料：無料

・プログラム

① 13:00~14:30

「駿河湾の自然と生態系とサクラエビ：その特性」

講師：カサレト ベアトリス (静岡大学創造科学技術大学院・特任教授)

② 14:45~16:15

「富士山の噴火と火山防災 -ハザードマップから見

える警戒・避難のあり方-

講師：小林 淳 (静岡県富士山世界遺産センター・教授)

・参加者数：56名

静岡大学数理データ・サイエンス講座

「データサイエンス・AI入門講座」

・開講期間：2024年8月1日 (木) ~ 2025年1月31日 (金)

・受講形式：Google クラウドによるオンデマンド受講

・受講料：20,000円 (全16回)

・対象者：企業、自治体、教育機関等の就業者

・学習スケジュール：データサイエンス基礎 (4回)、

統計基礎 (4回)、AI基礎 (8回)

企画協力事業

令和6年度6大学連携共同講座しずおか中部「未来学」 「人口減少社会における持続可能な地域づくり」

- 日時：2024年8月8日（木）13：00～19：00
8月22日（木）17：00～19：00
- 場所：BiViキャン（8/8）
藤枝市生涯学習センター（8/22）
- 参加料：無料
- プログラム
- 共同講座（8/8）
「自然と文化を領域横断するサステナブルな地域づくり」
講師：山本隆太（静岡大学地域創造教育センター・准教授）
- 実践講座（8/22）
「大雨に備えるための防災能力・地形フィールドワーク
コース～藤枝の地形と歴史を学び、災害に備えよう～」
講師：山本隆太（静岡大学地域創造教育センター・准教授）
- 主催：藤枝市大学ネットワーク会議、藤枝市

令和6年度 Reまなび大学リレー講座 「Reまなび＝大人の学び。」

- 日時：2024年9月13日（金）～11月15日（金）
18：30～20：00
- 場所：会場参加（静岡市役所静岡庁舎新館3階食堂
スペース「茶木魚」）とオンライン参加の併用
- 受講料：無料
- プログラム
- ①9/13（金）「おとなのまなび」
講師：山本隆太（静岡大学地域創造教育センター・准教授）

- ②9/20（金）「ストレスとリラックス技法」
講師：桑島隆二（静岡英和学院大学人間社会学部・講師）
- ③10/4（金）「睡眠の力とメンタルヘルス」
講師：中川雄真（常葉大学教育学部・講師）
- ④10/18（金）「緊張に翻弄される脳。緊張を克服する脳。」
講師：渡邊言也（静岡理工科大学情報学部・准教授）
- ⑤11/1（金）「古人骨からみた人類史」
講師：日下宗一郎（東海大学人文学部・准教授）
- ⑥11/15（金）「データに見る女性労働」
講師：上原克仁（静岡県立大学経営情報学部・准教授）
- 主催：大学連携生涯学習事業（静岡大学、静岡英和学院大学、常葉大学、静岡理工科大学、東海大学、静岡県立大学）、静岡市

市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。2024年度前学期の開講科目数、受講者数は以下の通りです。

開講科目数			受講者数		
静岡キャンパス	浜松キャンパス	合計	静岡キャンパス	浜松キャンパス	合計
5	4	9	20	6	26

- また、後学期事前説明会を両キャンパスで開催します。
- 日時：9月19日（木）14:00～15:30
 - 会場：[静岡キャンパス] 事務局別館1A会議室
[浜松キャンパス] S-Port 3階会議室

2024年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

- 水谷 洋一 地域創造教育センター長
- 山本 隆太 地域人材育成・プロジェクト部門長
- 辻本 侑生 地域創造教育センター講師
- 横濱 竜也 人文社会科学部教授
- 渋江かさね 教育学部准教授
- 白井 靖人 情報学部教授
- 塚田 直史 理学部准教授
- 立岡 浩一 工学部教授

- 高山 翔揮 農学部助教
- 江口 昌克 グローバル共創科学部教授
- 山本好比古 大学教育センター准教授
- 山口 典子 地域連携推進課長

地域と大学 第49号

- 発行日——2024年9月13日
- 発行——静岡大学地域創造教育センター
- 編集——上田 満津子
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
(事務局別館2階)
TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295
E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp
URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/
- (事務局) 学務部地域連携推進課 ☎ 054-238-4056